

果樹カメムシ類の発生量が増加しています！

チャバネアオカメムシ（写真1）やクサギカメムシなどの果樹カメムシ類は、なし、ぶどう、りんごなど、各種果樹の果実を吸汁し、果実の変形や品質低下などの被害を引き起こします。

当センターで実施したチャバネアオカメムシのフェロモントラップ調査の結果、比較的誘殺数が少ない時期である6月中下旬に多数の誘殺が確認されました（表1）。6月第6半旬までの総誘殺数は県内全調査地点で平年値を超えています（図1）。

今年は梅雨明けが例年よりも早く、高温少雨の状況が続き果樹カメムシ類の活動が活発となったことが要因として考えられます。今後も高温少雨の天候が続く場合、果樹園への飛来数の増加及び被害の拡大が予想されます。

また、今年は果樹カメムシ類の主要な餌であるヒノキ球果の結果量が一昨年及び昨年と比較して多く、果樹カメムシ類が繁殖しやすい環境にあります。そのため、次世代成虫が発生する8月以降の飛来数が多くなる可能性がありますので、果樹園地では飛来状況をこまめに確認し、飛来を確認したら速やかに防除を行いきましょう。



写真1 チャバネアオカメムシ成虫

表1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数

調査地点	6月第6半旬の誘殺数			調査開始から6月第6半旬までの総誘殺数			調査開始時期
	誘殺数	平年値	平年比	総誘殺数	平年値	平年比	
宇都宮市北部	501	53	951%	803	444	181%	4月第1半旬
芳賀町	158	23	687%	1777	445	399%	
那須烏山市	78	14	569%	103	65	159%	
矢板市	46	9	511%	148	127	117%	5月第1半旬
宇都宮市西部	187	35	533%	816	434	188%	
佐野市	79	27	293%	333	217	154%	

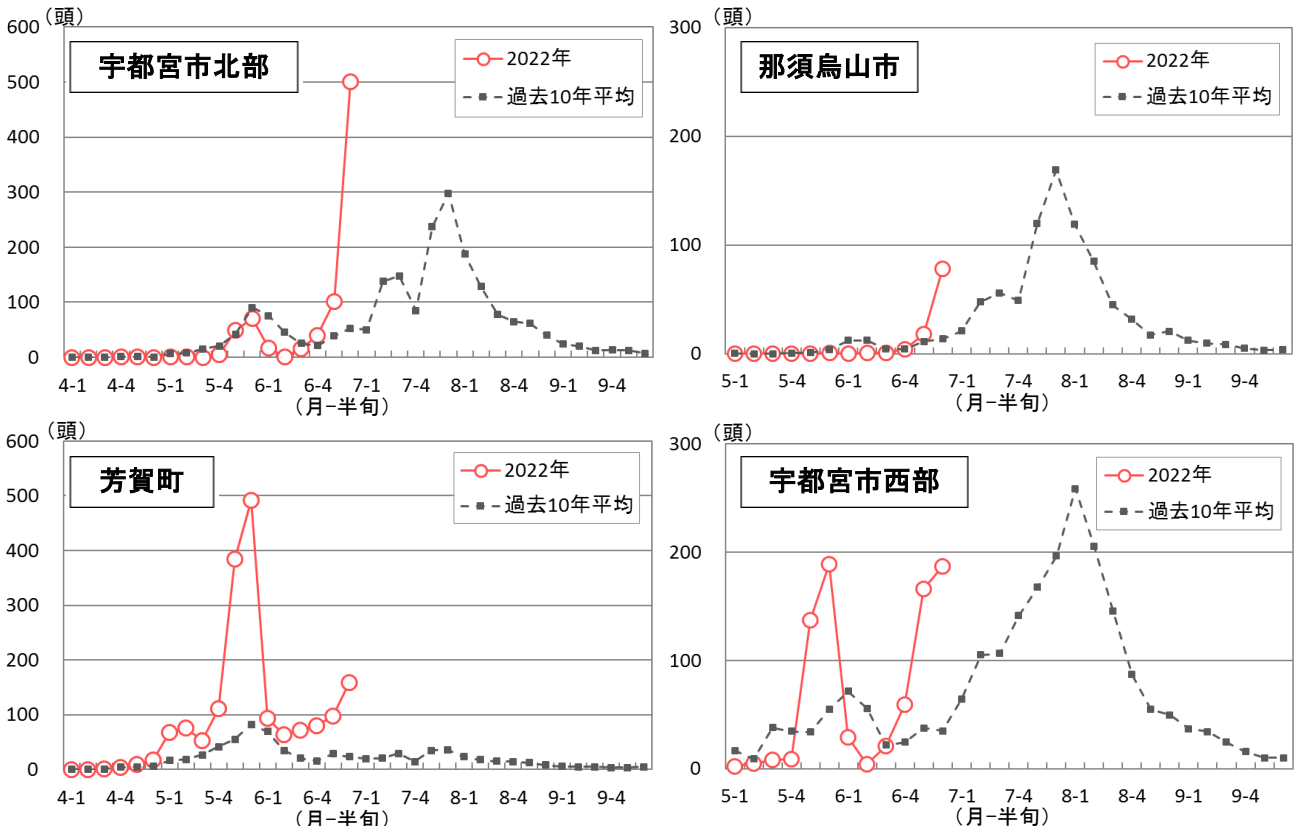


図1 チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数の推移（6月第6半旬まで）

1 防除対策

- 4mm 目合以下の多目的防災網を隙間なく展張し、破損が生じれば速やかに補修する。
- 果樹カメムシ類は、園地外から断続的に侵入してくるため、ほ場をこまめに観察し、果樹園内での発生が確認されたら表 2 を参考に防除を行う。残効期間の長いピレスロイド剤や、忌避効果の期待できるネオニコチノイド剤を効果的に使用して防除する。

2 注意点

- 山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
- 蒸し暑い夕方に果樹園への飛来が多い。
- 過度の薬剤散布は、天敵相を破壊しハダニ類やカイガラムシ類の多発生を招くので、果樹カメムシ類の飛来を確認してから防除する。
- 果樹カメムシ類は夜行性のため、早朝の防除が効果的。

表 2 カメムシ類に登録のある主な薬剤（令和 4 (2022) 年 7 月 6 日現在）

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	系統	IRACコード
なし	アーデントフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ピレスロイド	3(A)
	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1000~2000倍	3回以内		
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000~6000倍	2回以内		
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	4A
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで (※)	5000~10000倍	2回以内		
	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	モスピラン水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内		
ぶどう	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ネオニコチノイド	4A
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内	ジアミド	28
りんご	アーデントフロアブル	収穫前日まで	2000倍	3回以内	ピレスロイド	3(A)
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000倍	1回		
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	ネオニコチノイド	4A
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで (※)	5000倍	2回以内		
	アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内		
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内		
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	2回以内		

※ ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く

詳細は農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、
 「農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）」
 でもご覧になれます

